

# 令和3年度入学生用カリキュラムマップ

【食生活学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	5. 統合的能力							
1-1:1-2	2-1:2-2:2-3:2-4	3-1:3-2	4-1:4-2	5-1:5-2:5-3:5-4												
21JDFA1001	初期演習Ⅰ	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアパスを自ら構築する。	短大の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアパスを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。		○					◎	◎	◎		◎	◎
21JDFA1002	初期演習Ⅱ（食生活学入門）	1	「初期演習Ⅱ」では、栄養士を目指す初年次学生が、豊かな教養と感性、深い洞察力、コミュニケーション能力、また生命への尊敬やその職業に対する倫理観を身につけることを目的とする。	個人や社会が抱える様々な健康・栄養問題を積極的に学習する態度を身につける。		○					◎	◎	◎		◎	◎
21JDFA1003	基礎生物化学	1	食と健康の関係を理解するためには、食品中の栄養成分とその機能やヒトの体のしくみについて理解が必要となる。そこで本科目ではこれらのことを理解するために必要な化学の基礎と生物のしくみについて学ぶ。	食生活学の専門的学習を通して、社会に貢献する自覚を身につける。		○	◎		○							
21JDFA1004	英語会話Ⅰ	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	英語の基本的な文法事項などを復習し、コミュニケーション活動を通して基本的な会話が英語でできるようになることを目標とする。												◎
21JDFA1005	英語会話Ⅱ	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	「英語会話Ⅰ」で身につけた基本的会話表現・スキルを応用し、様々な状況で英語による意思伝達ができるようになることを目標とする。												◎
21JDFA1006	公衆衛生学	1	生活が集団化した現代社会では病気予防や健康の維持・増進は個人の努力だけでは不十分で、集団（国、都道府県、市町村、企業、学校など）としての健康の維持・増進の努力が必要である。本講義では環境や生活習慣が人間集団の健康の維持・増進を図るために如何に重要かを理解することを目的としている。	健康について総合的な知識を身につけ、自分自身と集団の健康に留意できるようになること。さらに栄養士として人々の健康の維持・増進に寄与する意義を理解すること。		◎		○		◎	◎					
21JDFA1007	社会福祉概論	1	現代では社会福祉の領域は非常に広範囲にわたっており、その内容も多種多様で、私たちの生活の様々な面に関わっている。このような社会福祉の根底を貫く原理を理解するとともに、社会福祉についての基本的な知識を習得することを目的とする。	現代社会福祉の理念が、経済の発展を背景に人権思想の深まりの中で創り出された、人類の叡智の結晶であることを理解する。さらに、日常生活の中で自分たちが関わる社会福祉制度についての知識を得る。		◎		○	○				○	○		





科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	5. 統合的能力	1-1:1-2	2-1:2-2:2-3:2-4	3-1:3-2	4-1:4-2	5-1:5-2:5-3:5-4					
21JDFA2023	応用栄養学Ⅱ	2	学童期から思春期にかけての成長・発達、成人期から高齢期にかけての加齢に伴うそれぞれの生理的变化と特徴について学び、ライフステージ特有の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケア・マネジメント実施のための理論を理解することを目的とする。さらに、運動・スポーツ、ストレス、ヒトの恒常性に影響する特殊環境と栄養の関連性について理解することで、ライフステージおよびライフスタイルを考慮した総合的な栄養ケア実施のための基礎力を養うことを目的とする。	学童期、思春期、成人期、更年期および高齢期の身体的特性、疾患・病態、栄養ケアのあり方について説明できる。運動・スポーツに伴う身体活動量の増加とそれに伴った栄養摂取、ストレス、特殊環境下における身体変化と栄養ケアのあり方について説明できる。	◎	○					○	○							
21JDFA2024	応用栄養学実習	2	妊娠、成長、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の評価・判定（アセスメント）の基本的な方法を習得し、ライフステージやライフスタイルに適した食事のあり方について学ぶ。また、健康増進、疾病予防の観点から、食事摂取基準に応じた献立作成の方法を習得し、実際に調理することで健康に対するリスク管理のあり方について学ぶ。	各ライフステージ特有の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケア・マネジメントを展開する力、健康増進・疾病予防のための栄養ケアを考え、実践する力を習得する。			◎	○			○	◎	○	○					
21JDFA1025	臨床栄養学概論	1	傷病者の病態・病期の特質や栄養状態に基づいた適切な栄養管理を実施するために、各種疾患の病気の原因や症状、病態、予後を理解したうえで、栄養学的視点に立った治療法や予防法について学習し、傷病者への栄養支援に必要な栄養評価や栄養補給法についての知識・能力を習得する。	1. 傷病者に対する臨床栄養管理の意義と目的について理解する。 2. 傷病者の病期・病態に基づいた食事計画の立案、調理など基本的な栄養管理を理解する。 3. 傷病者の病態や栄養状態に応じた食事療法を理解する。	◎	○			○	○	○	○							
21JDFA2026	臨床栄養学実習	2	臨床栄養学概論で学んだ知識を活かし、各種疾患に応じた栄養管理法について、栄養評価・判定方法、各種治療食の献立作成演習、臨床調理実習等を通して傷病者における栄養管理法の実際を習得する。	1. 病態別に栄養管理・食事療法が計画できる。 2. 病態別の食事療法の具体化として特別治療食の食料構成表・献立表の作成ができる。 3. 病態別に合わせた特別治療食が調理できる。			◎		○		◎	○							
21JDFA1027	栄養教育論Ⅰ	1	健康・栄養状態・食行動・食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。必要に応じて、対象者に応じた栄養教育のプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法も修得する。	栄養教育のマネジメントシステムを理解し、的確な栄養アセスメント、それに基づく栄養教育の計画、実施、評価の総合的なマネジメントを行うことができる能力を身につけることを目標とする。	◎		○		○			○							
21JDFA2028	栄養教育論Ⅱ	2	健康・栄養状態・食行動・食環境等に関する情報の収集・分析を行い、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。	対象に応じた栄養教育のプログラムの作成、評価を総合的にマネジメントできるよう健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を修得する。	◎		○		○		○	○							
21JDFA2029	栄養教育論実習Ⅰ	2	健康情報分析論、栄養教育論を基に集団を対象とした健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・分析をし、そのデータから評価・判定を行う。	栄養教育の方法、教育用資料の作成方法を習得する。	○		◎				◎	◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 職業志向性	5. 統合的能力												
					1-1:1-2	2-1:2-2:2-3:2-4	3-1:3-2	4-1:4-2	5-1:5-2:5-3:5-4												
21J DFA2030	栄養教育論実習Ⅱ	2	「栄養教育論Ⅰ・Ⅱ」（講義）を基に、個人を対象とした健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・分析をし、そのデータから評価・判定を行い、栄養教育の方法、教育用資料の作成方法を学ぶ。	「栄養教育論Ⅰ・Ⅱ」（講義）で習得した知識を活かして、実際に栄養教育を実施するための技術を修得する。	○	◎		◎	◎	○											
21J DFA2031	公衆栄養学	2	地域等の健康・栄養問題とそれらを取り巻く諸問題に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また、保健、医療、福祉、介護システムの中で適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの計画・実施・評価の総合的なマネジメント理論と方法を習得する。	1. わが国や諸外国の健康・栄養問題の動向とそれらに対応した主な栄養政策について理解できる。 2. 集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について理解ができる。	◎	○	○	○	○	○	○	○									
21J DFA1032	調理学Ⅰ	1	健康で豊かな食生活をおくるために、食物を「安全」「栄養」「嗜好」の視点よりとらえ、食事計画、調理環境、調理操作など、調理学の理論を学ぶ。さらに食の専門家（栄養士）として理論を応用し発展させていく力を養う。	食の専門家として、実践に結びつけられるよう調理操作・調理環境・食事計画を含め、調理学の基礎的理論を理解することを目標とする。		◎			○	○											
21J DFA1033	調理学実習Ⅰ	1	調理の基本原則を科学的に理解し、基本操作の習得や食品の調理特性を学ぶことを目的とする。	調理の基本操作を学習することにより、調理の基本原則を深く理解するとともに食品の調理特性を理解し、盛り付け・配膳も含め基礎的な調理の理論や技術を習得することを目標とする。	○	◎	◎		○												
21J DFA1034	調理学実習Ⅱ	1	「調理学実習Ⅰ」で得た知識を基に、安全・栄養・嗜好性にかんじた献立や行食事の実習を通して食の専門家としての実践力を身につける。	「調理学実習Ⅰ」で学んだ基礎的な知識や技術をもとに、日本料理や西洋料理などの行食事実習などを行うことにより、専門的な調理操作や食材の扱い方を深く理解し、さらに実践できる力をつけることを目標とする。	○	◎	◎		○												
21J DFA1035	給食管理学	1	病院、学校、事業所、福祉施設等の特定給食施設における給食管理の目的と重要性、さらに栄養士、管理栄養士の役割を理解するとともに、給食の運営や関連する業務について、具体的方法を修得する。	給食の運営を総合的に判断し、栄養面、生産面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養い、マーケティングの原理について理解するとともに、組織管理などマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。	◎	○	○	○	○	○	○	○	○								
21J DFA2036	フードサービス論	2	病院、学校、福祉施設、事業所等の特定給食施設において、給食業務を行うために必要な具体的実務を修得するとともに、特定給食施設での健全な経営管理の手法等を学ぶ。	特定多数人の人々の健康状態・栄養状態の改善・維持・向上、QOLの向上を目標とした栄養食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについての経営管理の理論に基づき理解する。	◎	○	○	○	○	○	○	○	○								
21J DFA1037	給食管理実習	1	給食管理実習は、学内実習室において、栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方の理解とその実践力を養うことを目的とする。	特定多数人の人々の健康状態・栄養状態の改善・維持・向上、QOLの向上を目標とした栄養食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについての経営管理の理論に基づき、実践する能力を養う。	○	○	◎	○	○	○	◎	○	○								
21J DFA2038	臨地実習	2	集団給食施設（病院、学校、事業所、自衛隊など）において、管理栄養士・栄養士指導の下で校外実習（1週間）を行い、栄養指導、給食管理の実際等栄養士として身につけるべき知識・技能を体得させることを目的とする。	給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を習得する。 （1）集団給食における調理技術を習得する。 （2）給食計画立案能力を習得する。 （3）給食業務に関する処理能力を習得する。														◎	◎	◎	◎

